

評価項目	評価項目 No.	質問項目	学校自己評価結果	学校関係者評価結果	学校自己評価についての評価の説明及び学校の考え	
組織運営等の状況	教育目標	1	学校は、児童・生徒及び家庭・地域の実情を踏まえ、適切な目標を設定し組織的に取り組んでいる。	3.35	3.22	・先生方の努力で基準に達している。 ・特別支援担当と連携し、保護者の思いを聞きながら対応できている。
		2	学校は、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)のもと、学年・学級や教科・分掌等の経営にあたっている。	3.10	3	・学年間の連携がもっととれるとよい。 ・改善を反省で書いても翌年に生かされないことが多いので、反省はデータで残すことや、各部会を積極的に進めることの重要性を感じる。 ・行事ごとに反省を集め、改善に生かしている。
	特色ある学校づくり	3	学校は、特色ある学校づくりの観点から教育内容の重点化を図っている。	3.20	3.78	・様々な分野での努力がすばらしい。 ・算数における「たかの学習」、ゴーヤの栽培をはじめとする「緑の学習」ができています。
		4	学校は、特色ある学校づくりのテーマのもと、教職員の共通理解を図り組織的に取り組んでいる。	3.15	3.44	・学力向上の委嘱もあって、「たかの学習」を全教員で進めることができた。
	黄賞向上	5	学校は、教職員の服務規律を確保するための取組をしている。	3.60	3.89	・倫理確立委員会の確実な実施。
		6	学校は、教職員の指導力向上に向け、計画的・組織的に研修に取り組んでいる。	3.20	3	・教職員の健康で指導力向上のために、実践的な研修の機会や教員間のコミュニケーションを密にする時間的な余裕が必要である。
授業等の状況	学力向上	7	学校は、学力向上を目指し、児童生徒の実態に基づき授業改善に取り組んでいる。	3.20	3.22	・学力向上の研究委嘱を推進することで、授業改善をし、全国学力テストや県学力テストで伸びを示すことができた。
		8	学校は、日々の授業等を通して、児童生徒に基礎的・基本的な学力を身につけさせている。	3.15	3.33	・算数科については、「たかの学習」を実践することで、基礎・基本を身につけさせている。
	授業規律	9	学校は、教職員の共通理解を図り、「授業の心得」に基づき指導にあたっている。	3.30	3.44	・全学級に共通の「授業の心得」を掲示し、共通の指導ができています。
		10	学校は、児童生徒が落ち着いた雰囲気の中で学習できるように、授業を展開している。	3.16	3.22	・クラスによる。 ・学級経営が困難になる前に、具体的なアクションを行うことが必要。 ・課題があることも見受けられたが、職員が組織的にかわった点は良かった。 ・学校全体でみれば、落ち着いた雰囲気である。 ・授業の進め方や教材の活用が、児童生徒の学習意欲を高めることに効果的であった。
	読書のまち	11	学校は、図書館経営を充実させ、読書活動を推進している。	3.55	4	・「すまじ読書」など習慣化されていない。 ・貸出冊数を飛躍的に伸ばすことができた。
		12	学校は、児童生徒が主体的に読書活動に取り組めるよう指導している。	3.55	4	・楽しんで読む子どもが増えたい。難しい本(年相応の本)も。 ・人気がある本を増やしたい。 ・ブックマスターの取組や、読書フレンドリーがとても良かった。子どもたちが大変喜んでた。
	健康・体力	13	学校は、規則正しい食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めようとしている。	3.20	3.11	・たくさん食べるための努力は、とでもしている。 ・残量は減っているが、空にすることはばかりでなく、一人一人がなるべく残さず食べられるよう支援することも大切である。
		14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、授業や部活動・外遊びに意欲的に取り組めるよう指導している。	2.95	3.33	・以前に比べ、外遊びが増えた。 ・寒間、昼休みに外へ出ていない子が多い。なわとびなど、もう少し工夫して取り組めるようにしていきたい。 ・委員会や行事等で、外遊びの時間の確保が難しい。 ・朝・寒間・昼とも外遊びをしている子が多い。外遊びを楽しませたい。
考え課題の推進	15	学校は、児童生徒や地域の実態に応じて、道徳教育を積極的に推進している。	3.25	3.22	・来年度からの教科化へ向け、道徳教育が充実するよう、働きかけていかなければならない。	
	16	教職員は、道徳授業の工夫改善をしている。	3.26	3.11	・年間1本ではなく、もっと研修を行ってもよいのではないかと。 ・昨年度の研究を生かし、新しい道徳の授業に取り組んでいる。	
指導・管理の状況	礼儀正しい児童生徒の育成	17	学校は、自ら手本となり、児童生徒に対し規範意識を高める指導を行っている。	3.10	3.33	・管理職から、日常的に若い先生たちに、児童の範となるよう行動することを指導している。
		18	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつができるように指導している。	3.26	3.22	・あいさつについては個人差が大きい。声の小さい子や顔を真見ないであいさつする子が多い。 ・人によって声の大きさや態度を変えてあいさつする子が多い。 ・学校外での実践力を高める指導が必要である。 ・指導しても中々変わらない現状は、自分の指導が不十分と考え反省している。
		19	学校は、児童生徒が「です、ます」をつける等、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	3.00	3.22	・「はい」「～です。ます。」をしっかりと覚えるように指導している。 ・指導していても、定着していないところがあるので、続けていく必要がある。
	生徒指導	20	学校は、児童生徒の不登校・非行問題行動に対し、共通理解を図り組織的に対応している。	3.30	3.22	・すみやかな登校ができなくなっている児童が増えているが、組織的に取り組んでいる。一人一人を見届ける時間が必要。 ・染髪している子に対する指導を共通理解したい。
		21	学校は、保護者(必要に応じ関係機関)と連携を図り、児童生徒の指導にあたっている。	3.40	3.78	・問題行動に応じ、連携を取ってきた。
		22	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いのよさや努力を認め合う指導をしている。	3.10	3.11	・子どもたちの言動に心・耳を傾け、正しいことがしっかりと通るようにさせた。ダメなものダメ。 ・SNSトラブルに対する啓蒙が、引き続き必要。
	安心・安全	23	学校は、事故やトラブルに対するマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	3.55	4	・竜巻や落雷、降雪、ミサイル対応など、危険の種類が増えている。危機管理マニュアルにひとまとめにしていきたい。
	24	学校は、定期的に安全点検を実施し、計画的に安全指導を行う等、日頃から安全な教育環境づくりに取り組んでいる。	3.65	4	・定期点検の結果、修繕に努めているが、修繕を要する箇所が多すぎて、なおかつ校舎の老朽化のため、修繕に費用がかかり過ぎて手がつかないところがある。	
環境整備		25	学校は、清掃活動や掲示教育に力を入れる等、組織的に環境美化に取り組んでいる。	3.15	3.44	・流しや流し前、トイレ床や棚など、しっかりと清掃。げた箱や傘立てが整頓されていない。 ・下駄箱の掲示を定期的に更新する。
		26	学校は、学習環境を整えるため、施設・設備の充実を図っている。	2.95	3.11	・予算の範囲で出来る限り整備している。
家庭地域との連携状況	家庭・地域との連携	27	学校は、学校だよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報を発信している。	3.40	4	・学校だよりは、市の教育について必要なことを抑えている。 ・頻繁にHPを更新できている。
		28	学校は、保護者や地域と連携し、親の学習や学校応援団の活用を図っている。	3.42	4	・親の学習を4回実施することができた。
		29	学校は、PTA活動や地域活動に積極的に協力している。	3.58	4	・日ごろから、PTAの支援によるところが大きく、積極的に協力しようという心がけている。